

# 2004年度第3回 交流のサロン

## “都市計画キャラバン2004向島” スタートアップを兼ねて 開催

Association of Mukojima Studies

# 向島学会

### 都市計画キャラバン2004向島

NPO法人日本都市計画家協会は、若手プランナー達の自由な発想によるプランニングと提言を発表する場として、毎年、地方都市で「都市計画キャラバン」を開催しています。11年目を迎える今年も、向島学会と連携し、東京・向島で開くことになりました。テーマは「アートと暮らしとまちづくり」。向島Y E A Rの一環として、向島で活動しているアーティストや日本都市計画家協会のまちづくり専門家等が協働して、向島の地域資源に着目し、暮らしに活気を与える観点から、アートを活用したまちづくりの促進について具体的な提案を行います。

会期は、  
7月24日(土)から11月27日(土)まで。

向島学会は、主催する都市計画キャラバン2004向島実行委員会メンバーとして参加しています。

暑い夏に熱く  
やっています

向島Year  
2004

[http://web.sfc.keio.ac.jp/~mtd/mukojima\\_year/](http://web.sfc.keio.ac.jp/~mtd/mukojima_year/)

会期 2004年5月-11月

## 向島学会

Mukojima Year 2004

AAF2004 アサヒアート  
フェスティバル  
6/5-7/4 (終了)

さまざま...

向島百花園200周年  
記念企画

さまざま...

都市計画キャラバン  
2004向島

鳩の街関連プロジェクト



# ニュースレター

2004年

8月31日号

<http://www.mukojima.org/>

発行 向島学会  
代表 高木新太郎  
連絡 墨田区向島5-19-12-1F  
7A・ニュー内  
03-3624-8673

### 都市計画キャラバンとは

都市計画キャラバンは、毎年、ある都市や地域を選び出し、会員たちがその地に出かけていって、その地の住民・市民・行政と一緒に、まちづくりを考えるイベントです。アフターキャラバンとして、継続するまちづくり活動も育っています。

#### 都市計画キャラバンの実績

2003北海道・2002平戸・2001福島・2000浜松・1999古河・1998前橋・1997東松山・1996丹波・1995掛川・1994長岡

### 日本都市計画家協会とは

日本都市計画家協会は、都市・地域計画の専門家、都市・地域問題に関心の深い人、まちづくりに興味ある人、まち歩きの好きな人など、都市や地域のあり方を考える、多様な人たちが参加して、まちづくりで社会貢献しよう、自主的に活動している、NPO法人組織です。

- 会長 伊藤 滋 -

特定非営利活動法人 日本都市計画家協会

Email <[jsurp@japan.email.ne.jp](mailto:jsurp@japan.email.ne.jp)>

URL <<http://www.mmjp.or.jp/jsurp/>>

「散歩の達人」とびっくす  
向島・曳舟・押上「特集」  
「タイトル」の奥で主張  
する奇跡の「天然力」  
中里和人さんの写真をはじ  
め、向島学会関連の情報がて  
んこもりです。佐原さん、高  
原さんと阿部さんの「高  
みゴット」とテイストさん。  
みんないい顔です。



### 目次

2004年度第3回交流サロン  
都市計画キャラバン2004向島

### いつでも募集

これからのニュースレターは報告だけでなく、投稿、取材にも力を入れていきたいと思ひます。投稿、まち記者、編集局員を募集します。ニュース編集局 大崎元まで [VED03705@nifty.com](mailto:VED03705@nifty.com)

# 向島学会第3回交流のサロン 都市計画キャラバン2004向島

## スタートアップ

【公開シンポジウム】  
「まちづくりとアートイベントの連携」

期日 2004年7月24日(土)午後1時半～4時  
会場 東武博物館ホール  
(墨田区東向島4-28-16 東武東向島  
駅徒歩3分)

参加費無料、会員以外は資料代として500円  
プログラム

あいさつ 笹原克 NPO法人日本都市計画家協会副会長)  
山崎昇(墨田区長)  
趣旨説明 真野洋介(東京工業大学助教授/向島YEAR  
実行委員会事務局次長)  
話題提供 実行委員会事務局次長)

- 1 ハコからまちへ、まちづくりにおけるアートプロ  
ジェクトの役割と可能性  
 曾我高明(現代美術研究所/向島YEAR実行  
委員会事務局次長)
- 2 アートが変えるまちづくり、向島のまちづくりを  
振り返って  
 山本俊哉(マヌ都市建築研究所/都市計画キヤ  
ラバン2004実行委員長)
- 3 欧州のまちづくりとアートイベント  
 菅野幸子(国際交流基金情報センター プログ  
ラム・コーディネーター)
- 4 ミーティングキャラバンからカフェラインまで  
ムトウイサム(Nmark アーティスト)
- 5 谷中界限と谷中芸工展  
 菅原なな・川村航・池田祥・石井公二(谷中中  
校・谷中芸工展実行委員会)
- 6 まちづくりから見たアートイベント  
 村山友宏(NPO法人日本都市計画家協会理事)  
意見交換 コーディネーター:嘉藤笑子(キコレイター/  
向島学会理事)、真野洋介(前掲)

### 【ガイドツアー】

「向島のアートと暮らしとまちづくりをめぐる」  
期日 7月24日(土) 午後4時から5時半  
参加費無料、ただしシンポジウム参加者  
コース東武博物館、百花園通り、フルハウス、鳩の街

### 【交流会】

会場は空き店舗活用アトスポット等  
期日 7月24日(土) 午後5時半から7時半  
会場 RICE+、さんゆう酒場(京島1丁目)  
参加費2,500円

主催 向島学会・NPO日本都市計画家協会/都市計画  
キャラバン2004実行委員会  
共催 向島YEAR実行委員会  
協賛 東武博物館

第3回交流のサロンは7月24日(土)、都市計画キャラバン2004向島スタートアップを兼ねて開催されました。

## 向島学会第3回交流のサロン

### シンポジウム「まちづくりとアートイベントの連携」の開催

最近、全国各地でアートを活用したまちづくりが盛んになりつつあります。最近のアートは、地域資源に光を当て、ふだんの暮らしに活気を与え、誰でも参加できるものが多くなってきています。こうしたことから、まちづくりや都市再生を促進するツールとして認められつつあります。

都市計画キャラバン2004の開催にあたり、これまでの向島のまちづくりのプロセスと、向島博覧会やアサヒアートフェスティバル等の向島のアートイベントを振り返り、まちづくりとアートイベントの連携について議論します。

参加者計 70名 一般 33名  
向島学会会員 23名  
日本都市計画家協会 17名  
(うち3名 向島学会会員)



菅野幸子「欧州のまちづくりとアートイベント」

## 報告 平成16年度第3回向島学会交流サロン 都市計画キャラバン2004向島 スタートアップシンポジウム

早稲田大学建築学科佐藤滋研究室 小林愛佳  
7月24日土曜日の午後、東武博物館ホールにて、都市計画キャラバン2004向島スタートアップ」を兼ねて、第3回向島学会交流サロンが開催されました。当日は気温が35度近くまで上がるという真夏の暑さの中、地元向島住民をはじめ、まちづくりの専門家、アーティスト、行政、学生など様々な分野から多くの人々が集まりました。

向島では、今年「向島YEAR」ということで、向島学会を中心に5月～11月まで各地で様々なイベントや活動が行われています。その一環として、NPO法人日本都市計画家協会が向島学会と連携し、同協会が毎年行っている「都市計画キャラバン」を、今年は向島で開催することになりました。テーマは「アートと暮らしとまちづくり」。その「都市計画キャラバン」のスタートアップとして、シンポジウム、ガイドツアー、夜の交流会という盛りだくさんの企画が行われました。

シンポジウムでは、まずお二方からあいさつをいただきました。都市計画家協会副会長の笹原克様からは、向島のまちが持つたずまいのよさに対する魅力について、墨田区長の山崎昇氏からは、アートの息づく向島に向けたまちづくり提案についてお話をいただきました。メインのパネルディスカッションでは、真野洋介さんから主旨説明があった後、5人の方からの話題提供が行われました。地元でアート活動をされている方やまちづくりの専門家など、様々な立場の方から普段の活動を通じてお考えになっていることや具体的な事例について聞くことができ、とても興味深かったです。ディスカッションでは、客席にいらつしやつた神田や神楽坂のまちづくりに関する方々からも意見がでて、様々な場所に関わる人同士の情報共有の場となりました。最後に高木会長から、アートもまちづくりも日常の生活面への取り組みというところまで共通している、という言葉をいただき、シンポジウムは閉会しました。

続いてガイドツアーでは、東武博物館から百花園通り、路地尊、フルハウス、鳩の街通りと、向島のまちをあちこち巡りました。向島在住で当初からまちづくり活動に関わっていらつしやる、向島学会理事の高原純子さんから、活動の内容や経緯について丁寧なガイドをして頂きました。通常のまちあるきとは違い、実体験に基づくたくさんのエピソードを実際の場所を訪れつつ聞くのは、とても貴重な体験でした。

その後は、RICE+などで交流会が行われました。シンポジウムの続き、というよりさらに一歩進んだ情報交換ができたのではないかと思います。やはりアートでもまちづくりでも、このようなお酒の席での交流は欠かせないのだな、と感じました。

向島では、向島YEARとして様々なイベントが行われていますが、このスタートアップをきっかけにさらに盛り上がりを見せていく事が期待される一日でした。

# シンポジウムレジメ抄録

各話者からのレジメの抄録です。真野氏、曾我氏、山本氏からは、向島の今の到達点が語られました。

## レジメ抄録1 趣旨説明

真野洋介

都市やまちの持つ根本的な力を引き出すためには？

地域固有の価値を創出するのは一人一人の感性である。これを支えるアートや教育プログラムは地域社会の貴重な基盤である。都市に対する多様な感性に基づく活動や場をつないでいくことを「編集」という言葉で表現すると、編集行為をどのように地域で支えることができるのか？場所の持つ力を引き出し、地域の創造性や魅力といった「社会資産」に変えていくための方法について議論する。

都市をめぐるとの現状認識  
現在多くの地域で進められている「都市再生」の現場では相変わらず、直接的なインフラ投資が進む一方で、地域の多様性や文化・教育、長い目で見たビジョンの醸成を支えるための公共投資や個々の取り組みが極めて少ない。  
まちづくりをめぐる環境にしても、第1世代のまちづくりで築いてきた「住民」とか「住環境」という言葉が今や、まちのあり方や空間、活動などの多様性を阻害する要因になってきているように感じる。

阪神淡路大震災が発生した1995年以降の、各地での動きを見てみると、まちで働く人やまちに来る人の居心地という意味で居住環境を捉えることもできるし、それを支えるコミュニティも徐々に形成されるようになってきた。  
感性と創造性、公共（パブリック）の関係  
プロデュースする側が設定したコンセプトやコピーとしての「感性」「身体性」  
各地で行われた都市博覧会やイベント、箱モノ建築  
アートへの参加/都市計画への参加  
参加する行為/つくる行為という関係が透けてみえた  
パブリック（公共性）に対する関心の高まり/懐疑  
公共空間/パブリック・アート/パブリック・ヒストリー/ commons 価値の共有と多様性  
創造性を高めるための「参加」  
インタラクティブ/協働（パートナーシップ）/創発



「本俊哉」アートが変えるまちづくり」

ゆるやかなネットワークを担保する器としてのアーリーナ  
プラットフォームが生まれる

異なる分野、異なる主体のマッチング  
ファンドの創設やレイジング（かき集め）  
データベースや映像コンテンツなど、ネットワークや  
アウトリーチを支える手法とツールの展開  
ノンプロフィット/ボランタリーな労働力  
アートとまちづくりの連携を考える

パブリック・イメージとパブリック・ヒストリー  
まちに対する多様な眼、記憶の発見  
歴史や時間の積み重ねに対する認識の変化  
建物やみち、緑・水などに対する感覚の変化と発見  
それぞれが楽しみ、使いこなせる情報のストック  
（冊子や地図、メディア、記録など）

活動拠点の多様化/居住環境との関係  
民間、NPOなどによる運営/建物の改修や転用  
アーティスタイン・レジデンスで地域社会ヘリチ  
まちに関する多様な人と活動を巻き込む方法  
創達の産業xコミュニティビジネスx多世代交流などが  
連関する流れ  
アートとまちづくりの連携度をはかる

地域間交流：地域外のお客さんがどれくらい割合で  
来ているか/どこまで交流範囲を広めているか  
世代間交流：スタップの年齢構成、男女比など/昼働  
いている人が休日や夜に参加しやすくなる努力など  
地域内交流：まちの人々の認知度と参加の努力/まち  
の人々とは「住む人/はたらく人/つかう・あそぶ人  
主体間交流：プロジェクト実行グループと既存組織との  
連携がどのように行われたか/どんな資源（人材や  
ノウハウ、お金など）がやりとりされたか  
作品・作家を介した交流：参加型作品の場合は参加者  
募集から参加に至るまでのプロセス、参加者の感想など  
/アーティストの滞在スケジュールと地域での行動  
広報による交流：ローカルな媒体をどう活用したか  
6つのポイント

公共（パブリック）と創造性の再結合「アート/ヒストリー/居住環境の再定義と連動」  
自律的な価値の源泉としての「ローカル」の再発見  
個人・場所の感性から、集合体（組織）・都市の力への  
編集「可変的ディレクション」  
創造性を高めるための仕掛けと実験の持続「参加から  
相互編集へ」

ゆるやかなネットワークを担保する場の持続（「アー  
リーナ・プラットフォーム」など）  
固有の「業（なりわい）」と「像（ビジョン）」の連動

レジメ抄録2  
ハコからまちへまちづくりにおけるアー  
トプロジェクトの役割と可能性 曾我高明  
墨田区向島にある築50年ほどの工場の建物をリフォーム  
して、現代美術制作所というアートスペースを始めてから  
およそ7年が経ちました。近年では、向島地域のまちづく  
りとも関わりを持つことになり、次第にハコ（制作所）か

らまちへと活動の舞台が広がっています。  
今回は、現代美術制作所の活動について簡単に紹介す  
るとともに、新しく向島のまちに住み始めたアート関係者  
の様々な活動や、彼らとの共同プロジェクトなどにも触れ  
ながら、まちづくりに関してアートプロジェクトが果たし  
得る役割や可能性について、具体的な例を通して考えてみ  
たいと思います。

## レジメ抄録3 アートが変えるまちづくり〜向島のまちづ くりを振り返って

山本俊哉

向島のまちづくりを振り返る  
向島：日本の経済成長を支えた住商工混在の木造密集  
市街地、災害と再生の歴史  
90年代前半まで：防災都市づくりと防災まちづくり  
のモデルとしての実験  
最近の10年間：バブル経済の崩壊に伴うまちづくり  
の転換と模索

あり方検討の機会：オッテンゼンや神戸の市民との交  
流、アートの受け皿、検討のプラットフォーム：川の手  
倶楽部 向島学会  
向島のアーティストイベントを振り返る  
工場跡地開発と「白鬚のリア」：企業の社会貢献、空  
き時間の活用にとどまる  
向島博覧会2000の意義  
地域ぐるみの面的な取り組み  
・アートを活用した資源や課題の再発見と共有、可能  
性の追求  
・社会実験的要素：まちづくりへの連続・発展の契機  
イベントを契機としたネットワーク形成と新たな組織  
づくり

一言会、SONOTA、向島学会等 向島YEAR  
の後は？  
アートが変えるまちづくり  
最近のアートは、まちづくりに近い：多様性、社会性  
実験性、親和性  
アートの力でまちを変える：創造力、表現力、変革力  
アートの意義：出合いの場、課題の再認識、地域への  
誇りや愛着を深める等  
経済活動への影響、知的集約産業としての雇用創出、ま  
ちの改善への期待も

まちづくりとアーティストイベントの連携の課題  
まちづくり側：アーティストイベントをどう位置づけるか  
・まちづくりの普及・啓発、ネットワークの形成、具  
体的課題の解決等  
アーティスト側：地域コミュニティとの連携の方法/中間的  
媒体者の重要性

アーティストイベントのマネージメント：資金調達、組織マ  
ネージメント、人材育成  
新しい観光・教育プログラムの創出、異業種交流によ  
る新規産業の誘発  
建築・まちづくりに係る問題に対する専門的サポート

5  
4  
3  
2  
1  
1  
2  
3  
4  
5

<今後の、都市計画キャラバン 2004 向島の企画>

**9月4日(土) 午前、午後**  
 向島百花園、すみだ中小企業センター(文花1)他  
**向島百花園を活かした緑のまちづくり**  
 - ワークショップ(WS)、シンポジウム -  
 向島百花園創設200周年を記念し、戦後復興などの歴史を振り返るとともに、向島百花園の資産を活かした緑のまちづくりのあり方を展望する。グリーンマップワークショップ等同時開催。

**7月~10月 中間報告会: 9月26日(日)**  
**交流イベント: 10月23日(土) 予定**

向島各地  
**向島のグリーンと暮らしとまちづくり**  
 - グリーンマップWS、宝探しとこども壁画WS、  
 路地菜園WS、食の交流イベント等 -  
 グリーンと暮らしに係る各種ワークショップを通して、向島の路地空間の魅力や地産プロダクトなどを活かしたまちづくりのあり方を展望する。併せて、空き店舗や地産プロダクトを活用した「食」の交流イベントを実施する。

**8月~10月 審査会: 10月30日(土)**  
 一寺言問集会所(東向島1)等

**向島の空き店舗再生とまちづくり**  
 - コンペティションと展示会 -  
 空き店舗等を活用した若手クリエイターを育成するため、全国から空き店舗活用の活動提案及び支援プログラム提案等を募集し、その実現方法について検討。

**11月27日(土)**  
 すみだ中小企業センター(文花1) 予定  
**本大会-アートと暮らしとまちづくり**  
 - 発表会、交流分科会 -  
 上記のシンポジウムやワークショップ等における議論と提案を発表し、アートを活用したまちづくりの進め方を展望する。

**関連同時開催企画 8月28日(土)**  
 大阪市立住まい情報センター  
**全国路地サミット in 空堀 / 大阪**  
 「路地の保全と再生 - 路地空間という日本の美しく豊かな生活空間をいかに残すか」をテーマに、空堀や向島等全国の関係者が集い、現代的な路地再生の具体的な動きを加速する。

**仲間になりませんか!**

向島学会では、会の目的に賛同し、活動に主体的に参加するとともに、活動の成果を会に提供する個人を対象に会員を募っています。具体的には、会員2名の推薦が必要ですが、交流サロンなどに参加していただき、その後、会員に申し込まれることをお勧めしています。また、向島学会の活動にご協力いただける人や団体を賛助会員として募集しています。

入会金 3,000円 (学生会員 1,000円)  
 年会費 3,000円 (学生会員 1,000円)  
 申し込みは 交流サロン、やHP等で受け付けます。下記に入会金や会費を納入してください。  
 郵便振り込み  
 記号番号 0110-7-84756 名義 向島学会

Association of Mukojima Studies

**向島学会**

- |                                 |                          |        |                       |  |                             |                                   |                           |   |                  |                            |                    |   |
|---------------------------------|--------------------------|--------|-----------------------|--|-----------------------------|-----------------------------------|---------------------------|---|------------------|----------------------------|--------------------|---|
| 2                               | 1                        | 3      | 2                     | 1                                      | 5                           | 4                                 | 3                         | 2                                       | 1                | レジメ抄録 4                    | 1                  |   |
| ダービー市(英国)「Tea-toast Technology」 | ナント市(フランス)「地域密着型アートイベント」 | 都市と創造力 | 日本の文化資源(新旧)の再評価と観光立国論 | Gross National Cool (アニメ、映画) GNPからGNCへ | なげアートか「創造力・文化力」の拡大、魅力や活力の創造 | コミュニケーション・アート、パブリック・アート、アウト・リーチ活動 | 文化の民主化(Cultural Democrat) | 価値観の転換 環境問題、エスニック問題、ジェンダー、ポップカルチャーの台頭など | 脱工業化社会とバラダイム・シフト | 「See Glasgow, See Culture」 | 70年代、80年代における都市の危機 | 欧州のまちづくりについて                                  |
|                                 |                          |        |                       |  |                             |                                   |                           |   |                  |                            | 菅野幸子               | 菅野氏からは欧州での事例。ムトウ氏、石井氏からは活動中の取り組みを報告していただきました。 |

ムトウイサガ ミーティングキャラバンからカフェラインまで



- |                              |                 |           |                                 |   |
|------------------------------|-----------------|-----------|---------------------------------|---|
| 3                            | 2               | 1         | 4                               | 3   |
| 都市生活における「Quality of Life」の追求 | 市民や地域社会のエンパワメント | 地域の解決をめざす | アートに潜在する力によりその地域、社会における課題の解決を促す | 高年齢者によるコンピュータを活用してのアートプロジェクト  |
|                              |                 |           |                                 | ロジエクト   |
|                              |                 |           |                                 | * <a href="http://www.tea-toast-technology.com/frame/start.html">http://www.tea-toast-technology.com/frame/start.html</a> |
|                              |                 |           |                                 | 横浜市 「文化芸術創造都市 クリエイティブシティ」   |
|                              |                 |           |                                 | ・ヨコハマの形成  |
|                              |                 |           |                                 | ・Bank ART 1929  |
|                              |                 |           |                                 | 金沢市 金沢市民芸術村   |
|                              |                 |           |                                 | まちづくりとアートイベント   |
|                              |                 |           |                                 | アートに潜在する力によりその地域、社会における課題の解決を促す   |

石井公二「谷中界限と谷中芸工展」

抄録5 ミーティングキャラバンからカフェラインまで ムトウイサガ  
<http://www.n-mark.com/>  
<http://www.n-mark.com/cafeline/index.html>



抄録6 谷中界限と谷中芸工展  
 菅原なな・川村航・池田祥・石井公二  
<http://www2.yanesen.net/yanakagakko/>  
<http://www.tctv.ne.jp/geikoten/>



意見交換 パネルディスカッション